

伝統芸能の担い手組織による戦後の地域イメージの創造 -「おわら節」歌詞募集事業に着目して-

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース人文地理学研究室
12210090 竹田徳也

研究背景

- ・おわら風の盆: 富山県富山市八尾地域で毎年開催
- ・越中おわら: おわら風の盆において披露される
- ・おわら節: 越中おわらの中の民謡歌詞
1929年から2009年まで富山県民謡越中八尾おわら
保存会によって歌詞の募集事業が実施

構成

- | | |
|------------|--------------------------|
| I はじめに | III 調査結果 |
| 研究背景 | 全体の抽出語上位37語の
傾向 |
| 既存研究 | 品詞別(名詞・動詞)にみる
歌詞表現の特徴 |
| 研究目的 | 出現回数ごとの語数分布
特徴語の分析 |
| II 調査概要 | IV 考察 |
| 研究対象と研究方法 | V おわりに |
| データの構造と前処理 | |
| 分析手順 | |

研究背景

- ・おわら節歌詞募集事業:
地方新聞社等の後援のもと懸賞付きで開催
募った歌詞を選定し, 後援する各紙上で当選作品を発表
→越中おわらの表現内容を更新・拡張する役割を担う
応募数減少を理由に2009年に廃止
→戦前期にイメージ戦略の一環として機能していた歌詞
募集が, どのように役割を変化させ, 地域イメージの創
造に影響を与えてきたのか

既存研究

長尾(2019)

八尾地域が有する〈うたの町〉というイメージに着目
おわら風の盆が、保存会によって総合的にプロデュースされていく過程を分析

→時代ごとの役割の違いや目的のもと、保存会が地域イメージ創造の主体となって当選作を決めるという恣意性

→伝統芸能が社会的・政治的文脈と結びつきながら創造されていく過程を明らかにする

既存研究

加原(2001)

地域イメージ:自然発生的に存在するものではなく,社会的・政治的文脈の中で創り出されるもの

→地域イメージとは,人びとの提唱やマスメディア,観光産業などの加担によって,人為的に創り出され,豊かにされてきたもの

研究背景

民謡歌詞募集事業におけるおわらイメージの創造

→地域イメージが創られた伝統として形成・変容していく過程の一部

戦後社会における地域イメージの創造過程を,歌詞募集事業という制度的実践から分析

長尾による空間誌的アプローチおよび加原による地域イメージ論を踏まえつつ,戦後期における地域イメージ創造の様相を明らかにする

研究目的

地域イメージの創造過程を,伝統芸能の担い手組織によって実施された民謡歌詞募集事業に着目し,その当選作品を通じた分析から明らかにする

→おわら節歌詞募集事業を対象とし,戦後期における事業の展開を分析することで,地域イメージがどのように創造されていったのかを考察

研究目的

各年の当選作品における特徴語や応募数、課題の内容の時系列的な変化を整理

→戦後という背景のもとで、どのような地域イメージや価値観が強調されていたかを説明

特定の年度を切り取り、その年度において歌詞募集を通じて表出している複数のイメージや価値観を整理、それらがどのような空間構造として併存しているのかを分析

→単一のイメージが形成されるのではなく、複数のイメージ空間が同時に存在している状況を捉える

研究対象

おわら節歌詞募集事業

・当選作

・(題詠)課題

→おわら節をめぐる地域文化の創造過程を担い手組織による課題の設定や当選作品から分析

研究目的

・戦後のおわら節歌詞募集事業を

“複数の地域イメージが併存しつつも、伝統芸能の担い手組織がその内部において望ましい八尾を編成していく実践”

であったものとして位置づけることを目指す

・歌詞募集事業における当選作品に着目することで、地域イメージが固定的に存在していたのではなく、評価と選別を通じて再構成されてきた過程を明らかにする点に意義を見いだす

研究対象

表1 年ごとの応募数と当選作品数

年	応募数(首)	当選数(首)	年	応募数(首)	当選数(首)
1946	不明	24	1959	2447	16
1947	不明	12	1960	2801	10
1948	不明	74	1961	1764	16
1949	不明	不明	1962	2083	16
1950	不明	不明	1963	3190	16
1951	不明	68	1964	3455	16
1952	1735	23	1965	3572	16
1953	不明	19	1966	3755	16
1954	不明	不明	1967	3882	16
1955	2388	14	1968	2318	16
1956	2794	12	1969	2126	15
1957	2541	12	1970	2543	16
1958	2541	12	1971	2365	16

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

研究対象

表5 年ごとの兼題

年	兼題
1946	新日本の唄
1947	1. 御巡幸ノ徳出(お巡り) 2. 民主日本ノ唄 3. 親族(一親、兄弟、姉妹其ノ他) 4. 立山、酒、稲
1948	兼題なし
1957	兼題なし
1958	(第十三回国体開催を記念して)
1959	兼題なし
1960	兼題なし
1961	そば、青田、行水、風鈴、枝豆、夜なべ
1962	瓢箪、そば、星、ところてん、桔梗、鳴子
1963	八尾和紙、渡り鳥、とんぼ、星祭り、夏のれん、稲汁、雷鳥
1964	八尾和紙、そば、桐の花、石屋根、水の音、 オリンピック東京大会を讃えるもの
1965	桑、草笛、桐の花、雷鳥、紙漉き、酒
1966	編笠、うちわ、野菊、雪洞、案山子、鮎
1967	つり橋、ともしび、柿、胡弓、石屋根
1968	柿、橋、鳥、雨、流
1969	お蔭、胡弓、桐の花、柳、竹、風の盆風情を詠み込んだもの
1970	風、虫、花、帯、峠、万国博覧会に因むもの、童謡おわら
1971	富山県の民情・風物を詠んだもの、「風の盆」の情緒(楽しさ・美しさ)を詠んだもの、 並びに”はやし”及び童謡おわら

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

研究方法

小林(2023): 武道歌を対象にKH Coderを用いた計量
テキスト分析

→個々の作品解釈に依拠せず、語の出現頻度や共起
関係といった量的指標を通じてテキスト全体に通底
する理念や価値観を抽出する手法

データの構造

- ・当選作をテキストデータ化
- ・1946年～1971年までの当選作品
→1作品を1行として入力
- ・語を最小単位に分割
→名詞を中心に語を抽出、必要に応じて動詞も参照

前処理

- ・強制抽出: 「風の盆」や「おわら踊り」
→一語として抽出されない一部の語
- ・抽出から除外: 「オワラ」「する」「ある」
→すべての句において用いられる語
→分析の妨げとなる語

分析手順

各年の当選作品を対象に頻出語分析

- ・全体の抽出語上位37語の傾向
 - ・品詞別(名詞・動詞)にみる歌詞表現の特徴
 - ・出現回数ごとの語数分布
- 外部変数として年度を設定した当選作の対応分析
- ・特徴語の分析

全体の抽出語上位37語の傾向

語が意味を持つ最小単位に分解し頻出語を抽出、出現回数8回以上の語を対象として整理

→出現回数7回以下と8回以上の語の数差

テキストデータ全体における頻出語の傾向を把握するため、出現回数8回以上を基準に設定

全体の抽出語上位37語の傾向

表2 抽出語上位37語の出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
風の盆	53	輪	15	灯	10
八尾	49	待つ	14	主	10
踊り	44	おわら踊り	13	浴衣	10
踊る	44	あの娘	12	逢う	9
月	28	気	12	編笠	9
唄	27	来る	12	唄う	9
町	26	胡弓	12	恋	9
花	23	立山	12	心	9
見る	21	娘	11	石	8
手	19	屋根	11	音	8
盆	19	秋	10	桐	8
出る	16	咲く	10	山	8

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

品詞別(名詞・動詞)にみる歌詞表現の特徴

表3-1 品詞ごとの出現回数(名詞)

語	回数	語	回数
風の盆	53	娘	11
八尾	49	屋根	11
踊り	44	秋	10
月	28	灯	10
唄	27	主	10
町	26	浴衣	10
お盆	25	編笠	9
花	23	恋	9
手	19	心	9
輪	15	石	8
おわら踊り	13	音	8
あの娘	12	桐	8
胡弓	12	山	8
立山	12		

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

表3-1 品詞ごとの出現回数(動詞)

語	回数	語	回数
踊る	44	刈る	5
見る	21	漣く	5
出る	16	染める	5
待つ	14	揃う	5
来る	12	明かす	5
咲く	10	掃る	4
逢う	9	見せる	4
唄う	9	行く	4
緒ぶ	6	追う	4
見える	6	渡る	4
吹く	6	聞く	4
晴れる	6	忘れる	4
流れる	6	鳴く	4
越える	5		

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

品詞別(名詞・動詞)にみる歌詞表現の特徴

表 3-1 品詞ごとの出現回数(名詞)

語	回数	語	回数
風の盆	53	娘	11
八尾	49	屋根	11
踊り	44	秋	10
月	28	灯	10
唄	27	主	10
唄町	26	浴衣	10
お盆	25	福笠	9
花	23	恋	9
手	19	心	9
輪	15	石	8
おわら踊り	13	音	8
あの娘	12	桐	8
胡弓	12	山	8
立山	12		

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

・「おわら踊り」13回、「胡弓」12回
「浴衣」10回、「福笠」9回
踊りという身体的実践を中心に、
楽器・衣装といった物的要素

・「太鼓」「三味」
祭礼としての風の盆を支える音
乐的・儀礼的要素
→単なる情緒表現ではなく、祭
礼空間を構成する具体的要素
を積み重ねることで八尾のイ
メージを描き出している

品詞別(名詞・動詞)にみる歌詞表現の特徴

表 3-1 品詞ごとの出現回数(名詞)

語	回数	語	回数
風の盆	53	娘	11
八尾	49	屋根	11
踊り	44	秋	10
月	28	灯	10
唄	27	主	10
唄町	26	浴衣	10
お盆	25	福笠	9
花	23	恋	9
手	19	心	9
輪	15	石	8
おわら踊り	13	音	8
あの娘	12	桐	8
胡弓	12	山	8
立山	12		

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

小林(2023)
武道歌に出現する道具名や自然
物が理念を具体化する

・「故郷」「育ち」「便り」「想い」
歌詞が観光的視線にとどまらず、
記憶や感情と結びついた生活世
界として八尾を構成している

・「野菊」「桔梗」「雷鳥」「案山子」
八尾のイメージが自然や農村的
環境と関連した空間として表象

品詞別(名詞・動詞)にみる歌詞表現の特徴

・「踊る」「唄う」「聞く」
音楽と身体動作
おわら節が視覚的景観ではな
く、身体感覚を通じて経験され
る空間として語られている

小林(2003)
→動詞はテキスト内での実践
の様態を示す重要な手がかり

表 3-1 品詞ごとの出現回数(動詞)

語	回数	語	回数
踊る	44	刈る	5
見る	21	漉く	5
出る	16	染める	5
待つ	14	揃う	5
来る	12	明かす	5
映く	10	掃る	4
逢う	9	見せる	4
唄う	9	行く	4
結ぶ	6	追う	4
見える	6	渡る	4
吹く	6	聞く	4
暗れる	6	忘れる	4
流れる	6	鳴く	4
越える	5		

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

品詞別(名詞・動詞)にみる歌詞表現の特徴

・「逢う」「待つ」「帰る」「忘れる」
人間関係や時間的感情
祭礼空間が一時的な非日常で
あると同時に、日常生活と連続
した場として構成

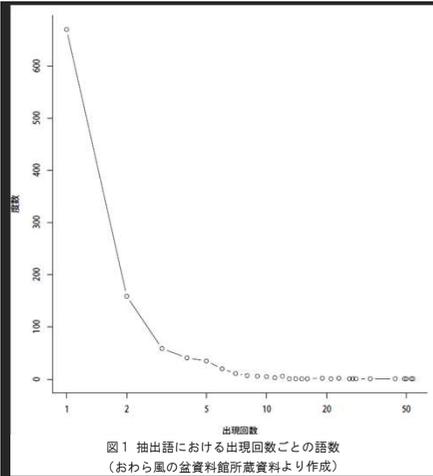
・「刈る」「漉く」「染める」
踊りの場が農村的な生活実践と
切り離されたものではなく、そ
の延長線上に位置づけられて
いる

表 3-1 品詞ごとの出現回数(動詞)

語	回数	語	回数
踊る	44	刈る	5
見る	21	漉く	5
出る	16	染める	5
待つ	14	揃う	5
来る	12	明かす	5
映く	10	掃る	4
逢う	9	見せる	4
唄う	9	行く	4
結ぶ	6	追う	4
見える	6	渡る	4
吹く	6	聞く	4
暗れる	6	忘れる	4
流れる	6	鳴く	4
越える	5		

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

出現回数ごとの語数分布



出現回数1回の語:670語
全体の64.42%
出現回数2回の語:159語
全体の15.29%

→抽出語全体の約8割が出現回数2回以下の低頻度語によって構成

→一部の高頻度出現語がテキスト全体の主題や中心的イメージを形成する一方で、多数の低頻度出現語が表現の多様性や具体性を担っている

特徴語の分析

表4 各年の特徴語上位三語

日本	0.1304	晴れる	0.2857	渡り鳥	0.2222	雨	0.1765
1946 鳴く	0.125	1958 越路	0.1667	1963 雷鳥	0.1765	1968 明日	0.1176
恋	0.1034	菊	0.1667	和紙	0.125	行く	0.1111
雪	0.1875	越中	0.1667	石	0.2	胡弓	0.28
1947 お待ち	0.0833	1959 踊る	0.1154	1964 五輪	0.1875	1969 竹	0.15
エンナカ	0.0833	月	0.075	屋根	0.1818	故郷	0.1304
娘	0.125	出る	0.1111	桐	0.2632	帯	0.2273
1955 戀	0.125	1960 月夜	0.1111	1965 紙	0.2105	1970 峠	0.1739
八尾	0.1017	踊る	0.0962	漣く	0.1667	おわら踊り	0.1333
蚕	0.1667	夜なべ	0.2667	野菊	0.2222	風の盆	0.1343
1956 風の盆	0.1207	1961 枝豆	0.1333	1966 輪	0.1429	1971 雁木	0.08
月	0.1143	手打ち	0.1333	蔭	0.1176	盆	0.0789
足拍子	0.1667	桔梗	0.25	灯	0.1875		
1957 兎	0.1429	1962 逢う	0.1429	1967 雲	0.1724		
越中	0.1333	駒	0.125	お盆	0.1333		

(おわら風の盆資料館所蔵資料より作成)

特徴語の分析

日本	0.1304	晴れる	0.2857
1946 鳴く	0.125	1958 越路	0.1667
恋	0.1034	菊	0.1667
雪	0.1875	越中	0.1667
1947 お待ち	0.0833	1959 踊る	0.1154
エンナカ	0.0833	月	0.075
娘	0.125	出る	0.1111
1955 戀	0.125	1960 月夜	0.1111
八尾	0.1017	踊る	0.0962
蚕	0.1667	夜なべ	0.2667
1956 風の盆	0.1207	1961 枝豆	0.1333
月	0.1143	手打ち	0.1333
足拍子	0.1667	桔梗	0.25
1957 兎	0.1429	1962 逢う	0.1429
越中	0.1333	駒	0.125

・1947年:「雪」「お待ち」「エンナカ」
八尾地域において特徴的な自然現象

・1955年:「娘」「戀」「八尾」
人物像や恋愛感情と地域名を結びつけた表象

・1956年以降:
「風の盆」「月」「越中」「踊る」
現在のおわらイメージとも重なり合う語

・1959年, 1960年:「踊る」「月」「月夜」
祭礼・夜・身体動作といった要素が結合した空間的イメージ

特徴語の分析

・1961年:「夜なべ」「手打ち」
・1963年:「和紙」
農作業や手仕事, 自然素材
八尾を生活実践の場とするイメージ
観光・祝祭的イメージとは異なる
日常的な空間を構成する語彙
・1964年:「五輪」 全国的な出来事
・1970年:「帯」「峠」「おわら踊り」
移動・身体装束に関わる語

ローカルな民謡でありながら, 同時代の
社会状況と接続しつつ語られていた

・1971年:「風の盆」「雁木」「盆」
祭礼空間・町並み・年中行事が重層的に結びついたイメージ

渡り鳥	0.2222	雨	0.1765
1963 雷鳥	0.1765	1968 明日	0.1176
和紙	0.125	行く	0.1111
石	0.2	胡弓	0.28
1964 五輪	0.1875	1969 竹	0.15
屋根	0.1818	故郷	0.1304
桐	0.2632	帯	0.2273
1965 紙	0.2105	1970 峠	0.1739
漣く	0.1667	おわら踊り	0.1333
野菊	0.2222	風の盆	0.1343
1966 輪	0.1429	1971 雁木	0.08
蔭	0.1176	盆	0.0789
灯	0.1875		
1967 雲	0.1724		
お盆	0.1333		

考察

頻出語分析

- ・おわらという文化実践を象徴的に結びつける語
- ・人々の身体的行為や移動, 視線を伴う動的な出来事

→担い手組織において, おわらが鑑賞される対象であると同時に, 参与される行為として位置づけられ, 地域イメージの創造が行われていた

考察

品詞ごとの出現回数

- ・「胡弓」「浴衣」「編笠」「屋根」:具体的な物象に関わる語
→おわらを構成する視覚・聴覚的要素であり, 八尾という場所を感覚的に想起させる装置として機能
- ・「故郷」「育ち」「想い」
→おわらが単なる観光イベントではなく, 情緒や記憶に関連する文化として言語化

考察

出現回数ごとの語数の分析

- ・全体の語彙の多くが低頻度語によって構成されている
→少数の固定的な表現に収斂せず, 多様な語彙で構成
- ・担い手組織による評価の枠組みが共有されつつ, 投稿者側の表現には幅がある
→地域イメージが規定されていたわけではない
→おわらの地域イメージが, 戦後という時代状況のなかで多様な意味づけを許容する開かれたイメージ空間として存在していた可能性

考察

特徴語分析

- ・年ごとに異なる語が特徴語として抽出
→単一のイメージとして固定されていなかった
- ・自然に関する語, 生活や生業を想起させる語, 感情を表す語など
→おわらを媒介として多様な八尾像が併存していた
- 地域イメージの創造が, 単なる時系列的変化として進行したのではなく, 戦後において複数のイメージが併存する形で展開
→募集事業という制度的フィルターを通過した地域イメージ

考察

- ・担い手組織が特定のイメージを繰り返し評価する一方、一定の多様性も許容していた
- ⇒地域イメージの創造:排他的な統制ではなく、選別と承認によって進められていた
- ・戦後のおわら節をめぐる地域イメージ
- ⇒担い手組織による当選作品の発表と投稿者による歌詞表現との相互作用のなかで構成された
- ・本研究の意義
- 時間的推移を単純に追うのではなく、戦後という枠組みの中で併存するイメージを共時的に捉えた点
- 計量テキスト分析を用いることで、先行研究において印象論的に語られがちであったおわらの地域イメージを、語彙の分布や構造として可視化できた点

文献

- 加原奈穂子 2001. 地域イメージの形成—「桃太郎の郷土としての岡山」. 文化人類学研究 2:64-82.
- 小林勝法 2023. 武道歌の計量テキスト分析による居合術の理念と術理の抽出. 体育学研究 68:597-606.
- 長尾洋子 2019. 『越中おわら風の盆の空間誌—うたの町)からみた近代—』ミネルヴァ書房.
- おわら風の盆資料館. 資料No.3-3(昭和16～30年).
- おわら風の盆資料館. 資料No.3-3(昭和31～42年).
- おわら風の盆資料館. 資料No.3-3(昭和43年～).
- 富山県民謡越中八尾おわら保存会 2009.『越中おわら』

おわりに

課題

- ・当選作および兼題という限られた資料に基づく分析
- 選評, 抽出語された語が含まれる作品の分析
- ・地域イメージの全体像を捉えたものではない点
- ・戦前との連続性や断絶について検討できていない点
- 資料の拡充, 分析手法の精緻化
- より広い視野から検討